

(様式1)

令和3年度 北広島市立西部小学校 自己評価及び学校関係者評価書及び報告書

作成日	令和4年2月
校長名	松本 広徳

1. 学校の教育目標

- えがおいっぱい ともだちいっぱい
- よく考え 進んで学ぶ子 (知)
- 心豊かで やさしい子 (情)
- ねばり強く やりぬく子 (意)
- 健康で たくましい子 (体)

平成19年4月1日制定

2. 学校経営方針

- (1) 確かな学力の向上
- (2) 豊かな心と道徳性の育成
- (3) 健やかな体の育成
- (4) いじめ・不登校等の未然防止・早期解決
- (5) 特別支援教育の充実
- (6) 協働による学校運営と教職員の資質向上
- (7) GIGAスクール構想の実現に向けた取組
- (8) 信頼される学校づくり
- (9) 地域・学校が創造する西部地区小中一貫教育の充実～深化・進化から真価へ～
- (10) 働き方改革の実現に向けた取組の充実

3. 本年度の重点

「学び合う・認め合う」活動を通して「楽しさ・豊かさ」へ

- (1) 基礎的・基本的な知識及び技能の確かな習得と思考力・判断力・表現力その他の能力を育み、学びに向かう力や態度を育成することを通して確かな学力を育む。
- (2) 集団の中で、基本的倫理観と規範意識をもち、自らを律し、他人とともに協調し、思いやりの心や感謝の心、自然や美しいものに感動する心などの豊かな心を育む。
- (3) 生涯にわたって運動に親しみ、健康を保持増進し、豊かな生活を実現できるよう、一人一人に応じた体力・運動能力の向上を目指し、たくましく生きるための健やかな体を育む。
- (4) コミュニティ・スクールや地域を基盤とする小中一貫教育を充実・発展させ、子どもたちの義務教育9年間の学びと15歳の姿に責任をもった教育を実現する。

4. 自己評価・学校関係者評価の結果

※自己評価項目の評価数値～上段:教職員 中段:(教職員昨年度) 下段:保護者

評価項目		自己評価			学校関係者評価結果及び意見
大項目	小項目	取り組み状況と成果・課題	評価	改善策	
1	学校経営教育課程(重点目標)	<p>①学校教育目標達成のために、教職員の組織力を高め、教育活動を展開すると共に、地域・保護者との連携を強め、信頼される開かれた学校づくりを行う。</p> <p>◇校長の経営方針や年度における経営の重点を意識し、教職員が協働意識を持ちながら一丸となって、教育活動を推進することができた。</p> <p>◇保護者や地域の方々が参観日や諸行事に参加していただくのが困難な状況であった。そのような中においても可能な範囲で授業に参加いただくなど、多くのご理解とご協力をいただき、限られた条件の中で充実した教育活動の推進につなげることができた。</p>	3.4 (3.2) 3.6	<p>○ア 次年度も学校教育目標を具現化すべく、学校の経営方針を意識した教育活動を展開していく。併せて、地域・保護者への積極的な情報発信を行うことで教育活動への理解と協力を高めていく。</p> <p>○イ 社会情勢を見極め安全・安心に配慮しながら、協働・連携を強く意識した取組を進めるとともに、保護者も含めた地域の方々の理解と協力を得ながら、教育活動の充実を図る。</p>	<p>3.7</p> <p>◎コロナ禍において実施することが困難な行事(運動会等)が、工夫された代替方式で適切に実施され、児童や家族が喜んでいった。</p> <p>◎パンデミック後に更なる推進を期待します。</p> <p>◎コロナなので仕方がないがもう少し学校行く機会があれば良かった。</p>
2	学習指導(自ら学び)	<p>②確かな学力を育む教育活動を展開し、自ら考え進んで学ぶ児童・生徒を育てる。</p> <p>◇児童の実態を踏まえ、目標の設定と到達するための手立てを講じながら、学力向上を目指してきた。学習規律の定着など日々の授業を大切に実践を重ねてきた。振り返りを大切にしながら、授業改善を進めることで、基礎・基本の定着に改善が見られる。</p> <p>◇家庭学習強化週間を設定し、自学力の向上を目指した取組を進めてきた。コロナ禍において学級懇談が行えないなど家庭との連携の難しさはあったが、西部中の優れた家庭学習ノートを手本とするなど工夫した取組を進めてきた。</p>	3.5 (3.3) 3.5	<p>○ウ 各種調査等の結果分析から実態をしっかりと捉え、子どもたちの確かな学力の定着を目指す。全教職員で共通理解を図りながら、次年度もチームとしての取組を一層高めていく。</p> <p>○エ 強化週間の取組を継続するとともに、ノート展示等、小中一貫教育と関連した取組を進めるとともに、家庭との協力を得ながら、家庭学習の一層の充実を図っていく。</p>	<p>3.7</p> <p>◎家庭学習の定着はどこの学校でも苦労していると思われるが、家庭学習ノートの工夫や家庭との連携を図って、基礎・基本の定着が進んでいる</p> <p>◎先生が児童の家庭学習の中身をきちんと見ているのか?</p> <p>◎コロナ禍で生徒の抱える問題等がわかりづらい中、家庭学習ノートでの先生から一言が生徒の励みになると思います。</p> <p>◎新しい遊びを提供する際等、きちんと座り落ちついて聞ける子がほとんどですばらしいと日々感じます。</p>

3	生徒指導 道徳教育 (心豊かに)	<p>③豊かな人間性を育む教育を推進し、心豊かで思いやる児童・生徒を育てる。</p> <p>④地域を愛する心と態度・行動力を育む教育を推進し、やがては地域・社会に貢献できるような児童・生徒を育てる。</p>	<p>◇道徳の学習を核とし、教職員一同、全ての教育活動で自己や周りの人々を見つめ直すことや道徳的な判断力の向上を大切にしながら、日々指導に当たってきた。児童は落ち着いて学校生活を送ることができている。</p> <p>◇例年と同様の取組が困難な中、読み聞かせ、地域探検や赤毛米の栽培活動等、多くの方にご理解とご協力をいただき、地域とふれあう教育活動を行うことができた。多くの機会を提供していただくことで、児童の地域に対する理解や愛着は高まっている。</p>	<p>3.2 (3.6) 3.5</p> <p>3.3 (3.1) 3.5</p>	<p>○オ 豊かな人間関係を生み出す基本となるあいさつや返事を高めることを指導の基本とし、思いやりや仲間意識の向上など、日常的な指導を全校で大切にしながら、目標の達成にむけ学校全体で取り組んでいく。</p> <p>○カ 今後も地域とともに歩む学校を目指し、地域の方々にご協力いただきながら教育活動の一層の充実を図り、児童が地域の一人として活動し地域を愛する心や態度を育成していく。</p>	<p>3.7</p> <p>◎登下校時の児童の元気な挨拶は、地域住民に活力を与えてくれる。</p> <p>◎毎年赤毛種を栽培している見本田では、西部小児童による田植えや稲刈りが行われ、赤毛種を後世に伝える行事が受け継がれている。</p> <p>◎地域の人のコミュニケーションの場があるのか？コロナになってから学校のことが見えない</p> <p>◎挨拶運動で声をかけるときちゃんと返してくれず元気が一番です。地域の活動も制限される中、子ども達と地域の方達との距離が開かないように知恵を出して取り組みが大事だと思います。</p> <p>◎赤毛米の栽培活動や福祉教育の取組、人権など心を育む活動が継続的に丁寧に推進されている。</p> <p>◎コロナ禍におき、今まで築いたすべてが無にならないよう地域の人達も関わりを忘れないよう乗り切っていこうと思います。</p> <p>◎地域との連携を密に行い、相互に対応できたことに感謝します。コロナ禍のためマスクをしているためか挨拶を交わすことが困難で残念に思う。</p> <p>◎朝の登校時に元気に挨拶をしてくれたり声にださなくても会釈をしてくれたりします。気にしている素振りや何かあった時は声をかけてきてくれます。そんな子ども達の姿に頼もしさを感じ、励みになります。</p>
4	健康・安全教育 (たくましく)	<p>⑤心身の健康を育む教育を推進し、健康でたくましく、自らをきたえる児童・生徒を育てる。</p>	<p>◇活動に制約がある中、取り組み方を工夫し、縄跳び運動など体力向上に向けた取組を行ってきた。今後も、子どもたちが進んで体を動かす意欲が高まるような活動の推進や、自分の命や健康は自分で守る意識の向上を図っていく。</p> <p>チャレンジランについては、感染状況と他の行事日程との関係で今年度は未実施となった。</p>	<p>3.0 (3.2) 3.5</p>	<p>○キ 状況を見極め、感染リスクに配慮しながら、本校の特色であるチャレンジラン・長縄等の体力向上の取組を進めていく。また、新体カテスト等の分析を行い、授業改善や苦手分野の向上を図る取組を進めていく。</p>	<p>3.4</p> <p>◎下校後に自宅周辺で黙々とバットの素振りやサッカーの練習、ランニング等に励むたくましい子どもたちを多く見かける。</p> <p>◎体力の低下が問題となっているがコロナ禍においては精神面へのサポートにも気を配っていただきたい。</p> <p>◎運動不足にならないようになるべく体を動かす機会があればいい。</p> <p>◎体力・免疫力をつけることはとても大事と感じます。</p> <p>◎冬道の登下校、車に気づかず危険な子が見受けられることがある。(今年の雪の積もり方が異常なところも原因のひとつとなるのか)</p>
5	特別支援教育	<p>⑥児童・生徒個々の発達段階やニーズに応じた特別支援教育の推進・充実に努める。</p> <p>⑦児童・生徒交流を行い、全教職員の協力的体制のもと指導に当たる。</p>	<p>◇校内では支援委員会を開催し、職員間の児童の情報共有を進めてきた。個に応じた支援の在り方について協議し、保護者の理解を得ながら進めることができた。</p> <p>◇職員会議や終会の中で、児童の交流を定期的に行うことで、情報の共有化を図った。担任一人に対応するのではなく、チームとして指導にあたることができた。</p>	<p>3.7 (3.1) 3.5</p>	<p>○ク 情報の共有を進め、保護者の理解を得ながら、児童一人一人のニーズに合った特別支援教育を推進していく。あわせて、地域・保護者への理解を深めるため、情報発信に努める。</p> <p>○ケ 中学校との情報の共有なども含め、他機関との連携も図りながら充実した指導を目指していく。</p>	<p>3.7 AAABAB未ABA未</p> <p>◎本人の好きなことや得意なことを伸ばせていけると良いと思う。協力できることがあれば応援したい。</p> <p>◎個別援助・チーム援助のご苦労は理解できる</p> <p>◎ごめんなさい、見えてないです</p>
6	小中一貫教育	<p>⑧小中の接続が円滑に行えるように、連携及び一貫教育の推進に努める。</p>	<p>◇西部CSを基盤とした西部中学校区の小中一貫教育を全国サミットで発信するために、中学校や地域と連携・協働して実践を進めることができた。これまで積み上げてきた西部中学校区の取組を公開できたことは全国に対する提言性もあり大きな成果があったと考える。</p>	<p>3.5 (2.4) 3.4</p>	<p>○コ 社会情勢を鑑みながら、これまで実践してきたことを土台に、西部CSと小中一貫教育の両輪体制で、児童生徒の9年間の学びのために計画的に取組を推進していく。サミットをゴールとするのではなく、一つの区切りとして更なる飛躍につなげていく。</p>	<p>3.8</p> <p>◎平成25年の西部CS発足以来積み上げが紹介された「小中一貫教育全国サミットin北広島」をオンラインで視聴し、感銘を受けました。</p> <p>◎一步一步前進していることは喜ばしい</p> <p>◎中学生と交流することは良いことなので今後も続けてほしい。</p> <p>◎防災学習の折、中学生と一緒に取り組むところ、きちっと自分の意見を伝えていた姿が素晴らしい。</p>
7	学校設定項目 (特色ある教育活動)	<p>⑨環境・福祉・人権・平和教育を充実するために、学校を取り巻く教育環境や地域の教育力を生かしながら思考力・判断力・表現力そして実践力を育てる。</p> <p>⑩勤労観・職業観を育み、自己実現に向かう態度を育てるキャリア教育の推進。</p>	<p>◇「総合的な学習の時間」を中心にねらいに沿ったキャリア教育を進めてきた。「夢ノート」等も活用し、自分を見つめ、将来に向けての夢や希望を抱く児童が増えてきている。</p> <p>◇昨年度から小学校でも開催していただいたソクラテスマーケティングなど、地域の皆様に支えられ、子どもたちは専門的な知識や技能を学ぶなど、貴重な学習機会を得ることができた。</p>	<p>3.2 (3.1) 3.5</p>	<p>○サ 次年度も保護者や地域の理解と協力を得ながら、児童一人一人が、将来を「強く、たくましく生きる」力を養う視点でキャリア教育を推進していく。</p> <p>○シ 保護者や地域にご協力いただき、地域の教育力を積極的に活用して、子どもたちの学びの質を向上させていきたい。</p>	<p>3.8</p> <p>◎自分の将来のことを考える機会となるソクラテスマーケティングはとても有意義なことだと思う。子どもたちにとっても社会人から直接話ができるので今後も継続してほしいです。</p> <p>◎校舎内外や花壇の手入れ等が行き届き、環境整備に努めていると評価できる。ソクラテスマーケティングの様子が学校のHPで紹介されています。講師の話や子ども達の姿勢が素晴らしい、真剣さが伝わってきます。事業の継続を望みます。</p> <p>◎ソクラテスマーケティングはもっとうるうるな職業の人の話が聞けると良い。1回だけでなく何回か開催してほしい。</p> <p>◎キャリア教育で子ども達の選択肢も増え、将来に役立つと思うので推進を。</p>

<その他>

◎コロナウィルス感染予防対策ありがとうございます。様々な行動・活動に制約がある中で之まで日常的に行ってきた活動の見直しが必要な時なんではないでしょうか？

5. 今後の方向性についての校長の所見

コロナ禍において、児童の様子や成長を見ていただく機会が激減する中、ホームページや学校だより等でお知らせするよう今後も努力していく。本年度の重点であった「学び合う・認め合う」活動については、意見交流などの学び合いの場を最大限に取り入れ、子どもたちの考えの深まりが見られるようになった。健康・安全の推進については、手洗いやマスク着用等、校内消毒等の感染防止策はもちろんのこと、チャレンジランの実施を見送るなど、感染リスクが高いとされる活動を行えない状況であった。結果として体力向上については計画通りにはできず、評価の数値にもそれが表れたととらえている。

次年度は、西部小中の一貫教育の積み重ねを土台として、特に一人一人の学習の充実を図りながら、さらに仲間や他者と学び合い学習を深めることを目指した教育活動を行っていききたい。一人一人の学習の充実については、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業の改善を中心に、地域の皆様からのご理解ご協力も大きな要素となる。さらに、GIGAスクール構想で導入される児童用PCの積極的活用など、ICT機器の有効活用などで一人一人に合った学びを実現していく。学び合いについても、既習事項や知識・経験などを発揮して取り組む姿勢を育てていくことで、学び合いをさらなる成長につなげていきたい。